

Ⅲ 資 本 等

1 資本金の状況

機構の資本金の状況は、次のとおりである。

| 区 分 | 18 年度期首 | 増減額 | 18 年度期末 |
|--------|------------------|-----|------------------|
| 畜産勘定 | 29,966,262,336 円 | — | 29,966,262,336 円 |
| 野菜勘定 | 293,139,653 円 | — | 293,139,653 円 |
| 生糸勘定 | 5,030,300,000 円 | — | 5,030,300,000 円 |
| 肉用子牛勘定 | 328,562,593 円 | — | 328,562,593 円 |
| 債務保証勘定 | 371,650,899 円 | — | 371,650,899 円 |
| 合 計 | 35,989,915,481 円 | — | 35,989,915,481 円 |

2 財務の状況

(1) 会計処理

機構は、法人の財政状態及び運営状況を明らかにするため、独立行政法人会計基準に沿った会計処理を行っており、決算に係る財務諸表は、監事及び会計監査人による監査を受け、農林水産大臣から承認された後、官報に公告し、かつ、各事務所において一般の閲覧に供している。

機構の会計は、業務ごとに経理を区分し、畜産勘定、野菜勘定、砂糖勘定、生糸勘定、補給金等勘定、肉用子牛勘定及び債務保証勘定を設けて整理している。

機構の各種業務を執行した結果、損益計算において利益が生じたときは、前事業年度から繰り越した損失をうめ、なお残余があるときは、その残余の額は、当該勘定において積立金として整理することになっている。一方、損益計算において損失が生じたときは、積立金を減額して整理し、なお不足があるときは、その不足額は、繰越欠損金として整理することになっている。

また、補給金等勘定においては、損益計算において利益が生じたときは、前事業年度から繰り越した損失をうめ、なお残余があるときは、農林水産大臣の承認を受けて残余の額の100分の80以内の額を畜産勘定の畜産業振興資金に繰り入れることができることになっている。

(2) 損益等

ア 畜産勘定

当勘定においては、指定食肉の売買保管等業務、指定乳製品、指定食肉又は鶏卵等の調整保管事業に対する補助業務、学校給食用牛乳供給事業に対する補助業務及び畜産業振興事業に対する補助業務、畜産物に関する情報収集提供業務、畜産関係団体に対する出資に係る株式又は持分の管理業務の経理を行っている。

当勘定の損益は、収益が、調整資金戻入益410億2,524万3千円、畜産業振興資金戻入益71億6,809万6千円、運営費交付金収益4億5,726万8千円、過年度補助事業費返還金102億3,113万2千円、運用利息、雑益等16億5,806万1千円を加えた605億3,979万9千円で、費用が、学校給食用牛乳供給事業費17億7,761万1千円、畜産業振興事業費526億5,921万6千円、畜産物に関する情報収集提供事業費3億3,429万7千円、これらに補助業務に係る業務費及び業務委託費、並びに当勘定の一般管理費、関係会社株式評価損等58億1,848万6千円を加えた605億8,961万円となったことから、4,981万1千

円の当期損失を計上した。

この結果、当期損失は積立金の取崩しにより処理し、次期繰越積立金は41億4,381万円となった。なお、畜産業振興事業は、環境対策やBSE対策等34項目の事業に対して補助金が交付された。

また、調整資金の収支は、収入は、政府からの交付金717億1,401万1千円、支出は、畜産業振興事業費に365億615万8千円、肉用子牛補給金等事業費に41億4,053万円、畜産物の価格安定等の事業費に2億5,890万円、一般管理費に1億1,965万5千円であった。

一方、畜産業振興資金の収支は、収入は、政府からの交付金81億7,471万5千円、運用利息、雑益、過年度補助事業費返還金、調整資金運用利息等の受入が114億3,269万7千円、支出は、学校給食用牛乳供給事業費に17億7,761万1千円、畜産業振興事業費に162億4,771万9千円の補助を行ったほか、これらに係る業務費、業務委託費、一般管理費、関係会社評価損等が5億7,546万3千円であった。

イ 野菜勘定

当勘定においては、指定野菜価格安定対策事業、契約指定野菜安定供給事業、特定野菜等供給産地育成価格差補給助成事業、重要野菜等緊急需給調整事業、野菜構造改革促進特別対策事業、野菜流通消費合理化推進事業等に係る経理を行っている。

これらの費用のうち、指定野菜価格安定対策事業等の交付金及び助成金は、造成した資金から受け入れた収益で賄うこと等とし、それ以外の業務費、一般管理費等の費用については、資金の運用利息等の収益で賄っている。

当勘定の損益は、収益が運用利息等収入16億3,453万4千円で、費用が業務費、一般管理費等16億3,453万4千円であったため、当期損益は0円となった。

当期損益が発生しなかったのは、野菜生産出荷安定資金又は野菜農業振興資金の運用によって生じた利子その他の当該資金の運用又は使用に伴い生ずる収入については、人件費、事務費その他の業務費に充てるほか、当該資金に充てることができることとなっており、野菜勘定で生じた受取利息等の収益のうち、業務費、一般管理費等必要な経費を控除した差額6億8,979万6千円を野菜生産出荷安定資金及び野菜農業振興資金に繰り入れたためである。

ウ 砂糖勘定

当勘定においては、価格調整措置の実施に必要な輸入指定糖の買入・売戻業務、異性化糖等の買入・売戻業務及び国内産糖の交付金交付業務と砂糖生産振興等事業の業務の経理を行っている。

当勘定の損益は、収益については、糖価調整事業収入501億4,619万1千円、その内訳は、指定糖調整金収入447億1,756万1千円（対象数量1,363千トン）、異性化糖等調整金収入54億2,862万9千円（対象数量793千トン）であり、国内産糖調整交付金戻入益88億3,087万4千円、運営費交付金収益13億4,118万2千円、砂糖生産振興資金戻入益518億8,579万2千円、過年度補助事業費返還金等5,350万2千円、受取利息等1億7,856万円、雑益520万9千円を加えた1,124億4,130万9千円であった。

費用については、糖価調整事業費720億6,529万5千円、その内訳は、てん菜糖434億1,445万1千

円（交付対象数量654千トン）、甘しや糖・鹿児島127億6,842万5千円（交付対象数量68千トン）及び甘しや糖・沖縄154億344万8千円（交付対象数量83千トン）、国内産糖検査委託費1億3,605万5千円、業務管理費等3億4,291万6千円であり、砂糖生産振興等事業費52億9,870万2千円、一般管理費等7億6,322万8千円、支払利息等1億9,243万2千円を加えた783億1,965万7千円となったことから、341億2,165万2千円の当期利益を計上した。

この結果、前期繰越欠損金841億9,492万3千円に当期利益を充当し、次期繰越欠損金は500億7,327万1千円となった。

また、砂糖生産振興資金は、17年度末残高518億8,579万2千円に当期の砂糖生産振興資金受取利息等2億2,549万6千円を加え、砂糖生産振興事業費等49億2,779万1千円及び情報提供収集事業費7,080万円を合わせた49億9,859万円を取崩し、その残余金471億1,269万7千円を短期借入金に充当した結果、当期末残高は0円となった。

エ 生糸勘定

当勘定においては、需給調整措置の実施に必要な生糸売買事業と、繭糸生産流通合理化等事業の業務の経理を行っている。

当勘定の損益は、収益については、輸入生糸売買収入1億7,799万円（対象数量15,582俵）、運営費交付金収益3,329万8千円、補助金等収益48億4,128万円、蚕糸業振興資金戻入益2億112万5千円、受取利息4,880万9千円、雑益163万2千円を加えた53億413万4千円であった。

費用については、生糸売買事業費1,741万4千円、繭糸生産流通合理化等事業費8億7,319万5千円、その他業務経費1,771万6千円、一般管理費3,132万5千円、支払利息3,294万7千円を加えた9億7,259万8千円となったことから、43億3,153万6千円の当期利益を計上した。

この結果、前期繰越欠損金101億3,921万1千円に当期利益を充当し、次期繰越欠損金は58億767万5千円となった。

また、蚕糸業振興資金は、17年度末残高6億4,688万9千円に輸入生糸売買収入1億7,799万円、蚕糸業経営安定対策資金戻入益4億7,680万8千円及び蚕糸業振興資金受取利息65万円を合わせた6億5,544万8千円を加え、繭糸生産流通合理化等事業費8億5,616万9千円及び輸入事務費戻入40万4千円で8億5,657万3千円を取り崩した結果、当期末残高は4億4,576万4千円となった。

オ 補給金等勘定

当勘定においては、加工原料乳についての生産者補給交付金交付業務及び輸入乳製品の売買業務に係る経理を行っている。

生産者補給交付金交付業務については、政府から生産者補給交付金の財源202億5,966万3千円を受け入れ、交付対象数量203万トンについて211億1,200万円の生産者補給交付金を交付した。

次に、輸入乳製品の売買業務については、脱脂粉乳3,289トン、バター3,675トン、ホエイSBS 4,279トン、デリースプレッドSBS1,776トン及びTE分として349トンの買入れを行い、バター247トンを期末在庫としたほかは、年度内に全量の売渡しを行った。

これらの結果、当勘定の損益は、収益が、指定生乳生産者団体補給交付金戻入益202億5,966万3千円、輸入乳製品売渡収入62億8,633万6千円に運用利息、雑益等1億604万8千円を加えた266億5,204万8千円で、費用が、加工原料乳生産者補給交付金交付事業費211億4,828万6千円(事務費を含む)、輸入乳製品売買事業費52億8,618万1千円に一般管理費等2億9,261万7千円を加えた267億2,708万3千円となったことから、7,503万5千円の当期損失となった。

この結果、当期損失は積立金の取崩しにより処理し、次期繰越積立金は252億8,049万3千円となった。

カ 肉用子牛勘定

当勘定においては、肉用子牛についての生産者補給交付金交付業務に係る経理を行っている。

当勘定の損益は、収益が、畜産勘定から受け入れた業務財源41億7,188万8千円、運営費交付金収益1億8,442万5千円、過年度補助事業費返還金223万5千円、運用利息及び雑益398万2千円を加えた43億6,252万9千円で、費用が、生産者補給交付金6億8,348万円、生産者積立助成金44億107万8千円、業務費及び業務委託費、一般管理費等15億9,988万9千円を加えた66億8,444万7千円となったことから、23億2,191万8千円の当期損失となった。

この結果、次期繰越積立金は、なくなることとなった。

キ 債務保証勘定

当勘定においては、乳業者等に対する求償権の管理業務に係る経理を行っている。

求償権の期首残高は、2者に対する2億7,761万7千円であったが、254万8千円を回収したことから、期末残高は2者に対する2億7,506万8千円となった。

当勘定の損益は、収益が、運用利息、貸倒引当金戻入益、雑益等を加えた597万5千円で、費用が、求償権回収業務費及び一般管理費等141万3千円となったことから、456万2千円の当期利益となった。

この結果、次期繰越積立金は、積立金794万5千円と合わせて1,250万7千円となった。